



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



大阪部会 (No.90)

日時: 2024年7月14日(日) 15:00 - 17:00

場所: 同志社大学大阪サテライト+Zoom 会議

参加者: 参加27名(会場17名、zoom10名)

【内容要旨】

今回の大阪部会は、毎年8月に開催される「先生のための「夏休み経済教室」」で今年登壇が予定されている方々からの報告を中心に進められた。

最初の報告は、田中和代氏（三国丘高等学校）による「総合探究でビジネスプランを考えてみよう」であった。三国丘高校はスパークグローバルハイスクール（SGH）に指定されており、ソーシャルビジネスプランの作成をカリキュラムに入れ、様々なコンテストに挑戦してきた。この報告は、それらの活動を主導してきた田中氏からの実践報告であり、8月14日（水）大阪の「夏の経済教室」で報告されることになっている。

まずビジネスプランを作り始めた理由と、これまで発表されたプランの例が紹介され、ついでビジネスプランの作り方が説明された。①自由な発想法として、ブレインストーミングの仕方、マインドマップの活用法を学び、②Business Model Canvas を使って、ビジネスプランを作り上げていく、③日本政策金融公庫の「高校生ビジネス・グランプリ」のエントリーシートを埋めていくことで、ビジネスプランを具現化していく、などの方法が解説された。さらに、プラン作成のヒントとして、複数のプランを同時に進める、進捗状況を互いに報告し質疑応答を繰り返す、プランの一部だけ作成するのでも多角的に世の中をみる力がつく、などのアドバイスが加えられた。

次に、阿部哲久氏（広島大学附属中・高等学校）から「公正な税制度を考えよう」が報告された。「公共」の授業で実施される全4時間の授業計画である。まず導入教材として「窓税」を用い、税についての素朴な議論から始め、歴史で学ぶ京都の町家の例に触れたり、消費税・所得税という身近な税の特徴について考えさせたりする。次に、公平な税制度を構想するために、公平とは何かを学び、消費税・所得税の公平さについて考察する。中でも、消費税の逆進性については、ライフサイクルの観点も加えて1時間解説の時間を設けている。その後、税制によって行動が変わることにも気づかせながら、公正な税制度をグループで議論し提案させた。こうした学習を通して、効率性、税の帰着、公平性などの「社会的な見方・考え方」を身につけさせようとした。

阿部氏の報告に対しては、関本祐希氏（市岡高等学校）から、いろいろな観点を入れすぎて難しくなっているとの懸念が示された。また大塚雅之氏（三国丘高校）からは行動が変わるような税制提案について質問があった。また、新井明氏からは、誰が何のために税制度を作るのか、立場によって異なることを学ばせるべきとの助言があった。込山美葉留氏（戸塚中学校）からは、中学校でも税を構想させる授業を行っており、諸富徹『税という社会の仕組み』（ちくまプリマー新書）などを参考にしているとの発言があった。

3番目は、河原和之氏（立命館大学）「ハイジとマルコを切り口に学ぶ授業～スイス永世中立国とアルゼンチン経済低落」であった。河原氏は8月13日大阪の「夏の経済教室」で、行壽浩司氏（美浜中学校）



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



とともに「経済の視点で地理の授業を創る」というセッションを担当することになっており、本部会で報告された2つの授業案も、地理と経済の関係を意識したものとなっている。

まず1つめの授業では、アニメ「アルプスの少女ハイジ」を題材にスイスを取り上げている。まずアニメを見て、ハイジの住む場所や家族環境を整理することから始め、スイスの地理的特徴、産業、文化などについて、クイズをはさみながら学習する。ついで代表的な産業である酪農が「移牧」という形態で営まれていることを知る。その後、おじいさんが若い頃傭兵に行っていたこと、スイスはかつて周辺国に傭兵を派遣する国でありヨーロッパで頻繁に起きた戦争を支えていたことを学ぶ。そして、その後スイスは永世中立国として周辺国からも認められ、スイスが安定することでヨーロッパの安定にもつながったとの理解に至る。

2つめの授業では、アニメ「母を訪ねて三千里」を題材に、アルゼンチンの地理と経済を学ぶ。このアニメの中で主人公マルコは、アルゼンチンに出稼ぎにいった母を訪ねてイタリアから長い船旅に出る。授業では、アニメをみて出稼ぎ先がアルゼンチンだと当てることから始め、なぜアルゼンチンに行ったのか、当時のアルゼンチン地理的特徴、経済状況、ヨーロッパとの関係などを学ぶ。その後アルゼンチン経済が低迷していったことを知り、その理由を考察する、という流れになっている。夏の経済教室では、実践報告のあと、地理学習において経済的視点が大きい役立つ部分があるが、経済抜きの方が理解しやすい部分にもふれるつもりだと述べられた。

李洪俊氏（矢田南中学校）氏から、イタリア語の国からスペイン語の国に行っても大丈夫なのかとの素朴な疑問が出されたが、すでに多くのイタリア移民が訪れており、生活にも仕事にも支障はなかったのだろうと河原氏からも新井氏からも返答があった。新井氏からは、アルゼンチンの没落の過程を、政治や政策とも関連付けて、もう少し詳しく扱ってほしいとの要望があった。

4番目の報告は、川村由美子氏（長吉西中学校）の「個人と社会のウェルビーイングをめざす生徒の育成～探究活動を通しての課題設定力、言語能力、社会参画の意識向上～」である。川村氏は、中学校1年生から3年生まで継続して、1年生では世界のさまざまな地域の調査、2年生は都道府県調査、3年生は持続可能な社会をめざしての卒業レポートと、計約40時間をかけて探究活動を行わせている。いずれの段階においても、①課題設定②調査活動③分析・まとめ④発表の過程を繰り返させており、新聞を使ったNIE、都道府県関係者や専門機関など学校外部への問い合わせなども組み合わされている。咲くやこの花中学校・高等学校に在籍していた9年間の実践経験は、以前大阪部会でも、2019年の「夏休み経済教室（東京）」でも発表された。

2022年、川村氏は中高一貫の成績上位校から、必ずしも成績がよくない中学校に転勤になった。それでも1年生から3年生までの継続した探究活動を行おうとしたが、前任校と同じやり方では難しく、社会科授業を一から練り直す必要があった。たとえば徹底した放課後補習によって、宿題を完全提出させることから始めた。また、他の教員を巻き込んで、カリキュラムを共有したり、総合、校外学習などでのICT活用を促したりした。その結果、現在の中学校でも探究活動が行えるようになり、課題設定力や言語能力の向上、社会参画の意識の高まりなどが見られるようになった。

川村氏の報告に対しては、河原氏、丹松美代志氏（大阪学びの会）、兼間昌智氏（札幌大学）らから、高い評価と自身の経験にもとづくアドバイスが多く寄せられた。

4つの報告の後、「夏休み経済教室」で進行をお願いしている関本氏、李氏、杉浦光紀氏（新宿山吹高



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



等学校)、小谷勇人氏(春日部市立武里中学校)から、報告者やコメンテーターとの打合せの状況が報告された。その際、関本氏からは「夏休み経済教室」で報告する「もし公民教師が地理総合の担当を命じられたら」の概略と、大阪の高校対象の日に、講演「教えるための経済学入門ー世界を読み解くために必要な経済的見方・考え方ー」を依頼している島田剛氏(明治大学)からのメモが配布された。

その他、山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から、「経済の視点での地理の授業」に関連して、中学校地理で実施した米国合衆国の工業に関するテスト作問例が配布された。

(文責:野間敏克)

次回開催予定: 2024年10月20日(日)15:00~17:00、場所形式未定